

普及活動情勢報告（令和４年１１月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

本山町の未来をみんなで考えよう！！

～第２回農村 RMO ワークショップを開催～



話し合いをサポートする
普及指導員

11月15日に本山町みらい会議が第２回農村 RMO ワークショップ（以下 WS）を開催し、町民等 32 名が参加しました。

第２回 WS では、第１回 WS で出された「目指すべき将来像」について、「農地保全」、「地域資源の活用」、「生活支援」のテーマごとにアイデアの具体化に向けて検討しました。

普及所は同会議のサポートチーム会メンバーとして、関係機関と連携して企画立案し、当日の運営を支援しました。

12月6日には第３回 WS を開催し、ビジョンへ取りまとめることとしています。

今後も普及所は、今後も本山町のビジョンの策定とその実行に向けて農村 RMO の取組を支援していきます。

世界に向かう嶺北産ユズ!～輸出用ユズ玉の出荷作業～



輸出用ユズ玉の
消毒・選別作業を確認中

11月17日に JA 高知県や町、普及等の嶺北地区ゆずの関係者 11 名が参加し、大豊町の JA 集出荷場で、輸出用ユズ玉の出荷作業を行いました。青果ユズ輸出の取組は嶺北産ユズ PR を目的に平成 26 年から実施しており、今年は約 200kg を EU(オランダ)へ輸出します。

普及所は、輸出検査に必要な書類作成を支援するとともに、殺菌や選別作業が適切に行われるよう指導しました。EU 輸出向けの青果ユズ栽培では、残留農薬や植物防疫について厳しい制限があり、参加した関係者は「生産者の苦労の結晶であるユズ。事故なく、無事に EU に届いて欲しい」と、念入りに選別作業を行っていました。

今後も普及所は、産地のイメージアップを図るために、嶺北産ユズの輸出に向けた活動を支援して行きます。

今年の栽培振り返り！ ～土佐れいほく Confidence Flower 反省会～



すき込み前のチャガラシ

11月18日、JA 高知県土佐れいほく Confidence Flower は反省会を開催し、生産者 3 名、市場 2 名、球根会社 1 名、JA 3 名、普及所 2 名が参加しました。

JA からは、今年度の販売実績と反省点について、市場や球根会社からは、最近の情勢や課題、生産への期待についての説明がありました。

普及所は、緑肥と太陽熱消毒を組み合わせた方法の地温測定結果の報告と、SAWACHI の周知を行いました。

生産者からは、「経費を削減し収入を確保するためにも、緑肥を活用していきたい」との声が聞かれました。

今後も普及所は、JA と連携して花き農家の収入増加につながる取組を進めていきます。

有機 J A S 認証を知ろう～有機農業研修会～



現地ほ場で意見交換

11月21日、普及所は有機農業研修会を土佐町で開催し、農家7名、町3名、普及2名が参加しました。

今回は有機 J A S 認証取得のために必要な知識を、より具体的に理解してもらうことを目的に、有機農業指導員を講師に招き、現地ほ場での実習を組み合わせ実施しました。また、会では専門技術員から有機農業支援策も説明されました。

参加者は、「棚田では水系をどのように管理すべきか」「購入種苗でも認証取得は可能か」など多くの質問をし、熱心に受講していました。

今後も普及所は、有機栽培農家の拡大につながる取組をすすめていきます。